

2026年は、次の4つの質問から国内外のスタッフの皆様に答えて頂きました。

- 1)どんな時に、また何をしている時に「平和」を感じますか？
- 2)「神聖の輝き」を自分や周りの人、大自然に感じた瞬間はどんな時ですか？
- 3)叶えたい夢は何ですか？その「夢」の実現の為に、何か行動している事がありますか？
- 4)自分の心に、そして世界に平和を築くためにしたいこと、していること、出来そうだと思うことは何ですか？

1.スコットランド、アラントン聖地のキャロラインさん

私が美しく穏やかな波動にアクセスする方法の一つは、瞑想の姿勢をとって、3回深く呼吸法を行い、意識を心に向け、ハートチャクラの神聖さを感じる事です。私は、自分の心が、無限なる愛と平和を、まずは自分の回り、家族や友人、地域、そして地球全体へと放っていることに意識を向けます。息を吸い、吐きながら、背骨を伝って、第1のルートチャクラから、聖なる心を通り、頭の頂、第7のクラウンチャクラ、そしてその先へと通り抜けていきます。この尊い空間に身を落ち着かせた後、私は「神聖復活の印を組みます。すると、自分自身がウエルビーイング、幸福感に満たされ、その幸福感は宇宙へと波紋のように広がり、この波動が触れるすべてのものを包み込みます。

2.ドイツのアンゲリカさん

多くの場合、祈りを終えた後は、より深い安らぎを感じることができます。それは、自分の心の中にも、そして私がつながっているこの世界にも広がる安らぎであり、自分自身や周囲の人々に対して、より寛大に、より希望に満ち、そして、私の守護神様や守護霊様に対してより信頼を寄せられるようになるのです。

3. イタリアに住んでいらっしゃるマヤーダさん

海を前にして神聖復活の印を組んだり、樹齢100年の木を眺めながらすべての植物に感謝の印を捧げたりするとき……いつもではないけれど、最近はおほとんどの場合、海が私の印に応えて、神聖なエネルギーを私と交わり、私の目の前でさざ波を立ててくれるのを感じます。また、ほんのわずかなそよ風に揺れる木も、感謝の印に応えて揺れているように感じます。これらは私にとってとても尊い瞬間であり、謙虚な感謝の気持ちと安らぎが私の心を満たし、温めてくれるのを感じます。その結果、宇宙全体との強いつながりを体験し、あらゆる創造物と一つになることができます。世界人類が平和でありますように。母なる地球さん、ありがとうございます。

4.デンマークのシルビアさん

アラントン聖地での祈りの会では、自分自身や周りの人たちの中に、深い内なる平安を感じます。統一の瞑想に参加しているとき、五井先生の穏やかで平和な存在を感じます。内なる平和と外なる平和を実現するために、共に祈り、私たちの波動を高めることは、私にとって重要なことです。

5.アラントン聖地の近くに住んでいらっしゃる馨子さん

「自分を赦し、自分を愛す。これを実現することが、世界平和顕現の第一歩である」と、五井先生はおっしゃいました。自分を愛し、赦すことは、世間的にはまだまだ自己中心的だと捉えられてしまうと思いますが、それができるようになれば、良いことのすべてが加速すると同時に、私たち一人ひとりが集合意識への最大限の貢献者になると思います。そして、私たちは、ただそこに在るだけで、何も言わずとも光を放つ存在になれるのだと思います。人類一人ひとりがその境地に至れば、それこそが世界平和の顕現につながると私は信じています。

6.イタリアのラウラさん

私が守護神様や守護霊様に身を完全に委ね、恐れもせず、何に対しても良い悪いと決めつけることもせずに彼らの導きに従うときのみ、私の内なる存在として私の神聖が輝き出します。

7.ドイツのリタさん

私は、自分自身、自分が本当にそのものであるものしか、周りに放つことも、それを顕して輝かせることもできません。ですから、平和を発信するためには、私自身がまず平和でなければなりません。そして、自分自身を理解し、受け入れ、愛し始めた瞬間に、やっと私は内在する平和の状態に到達するのです。

8.ドイツのレギーネさん

安らぎの気持ちを生み出すために出来ることはたくさんあります。しかし、本当の平和を見つけるためには、神にすべてを委ねること、これしか思い浮かびません。

9. スペインのルルデスさん

私の夢は、自分自身を決して疑うことがない、そんな「私」を実現することです。

私は、どんな時でも、自分は素敵な人間であり、外見を超えて自分らしさを表現できるということを、常に心に留めるよう心がけています。心の中に平安を育むために、私はあらゆる思いを世界平和の祈りの中に投げ入れています。そして、自然の中にと、いつもその輝きを感じます。

10. フランスのニコルさん

生まれ故郷であるブルターニュで、海に沈む夕日を畏敬の念を抱き、静寂の中で眺めているとき、私は心の平安を最も身近に感じるのです。

自分の魂とより深く親密になり、その無条件の愛を体験し、その美しさを認識するとき、私は自分の中にある神性の一面とつながっているのを感じます。

この惑星に生きるすべての生きとし生けるものとこの光を分かち合うことは、私にとって、「全体」、すべてのすべてとの更なる一体感を求める日々の機会を与えてくれます。

一人でも、グループでも、祈りは周りの人々への安心感と異なる次元の人生の気づきを最大限にもたらしてくれます。そこでは、自分の人生が輝きを放ち、この人生において果たすために来た使命を成し遂げているのだと、私は知っているのです。

oo

1. 大阪支部の岡本敬子さん 私の願う幸せ：

自分も人も、動物も植物も、海も山も大自然全～部が、先ずはそれぞれの願う幸せであること。そして個の願う幸せが、神さまの思われる幸せと一致すれば、もうそれが最高の幸せ！人類の神聖復活を目指して、世界平和の祈りをたゆみなく祈り続けること。

神聖復活の印を心して組むこと。何て幸せな毎日なんでしょう♥

2. 大阪支部の竹下良子さん

朝、大空と、近くの山に登る太陽を見て、平和を感じ

夜、虫やカエルを聞いて、平和に満たされます。

私が平和を築くために目指すのは、とっさの時に想いを手放し、守護霊様守護神様を呼び続けることです。

3. 広島井上正太郎さん

心を穏やかに保ち、皆も全てのものも一つであることを実感しながら、

自分の人生の真の役割を、明るく軽やかに果たしていくことが平和に繋がると思います。

世界人類が平和でありますように。

4. 大阪支部の片岡和久さん

わたしの「夢」は、「ベルリンの壁崩壊をもう一度！世界中のあらゆる壁の消滅！」です。

1989年のベルリンの壁崩壊後、その波は、東西ドイツの統一、チェコのビロード革命、東ヨーロッパ諸国のドミノ倒し民主化へと広がりました。今こそ、地球上に存在するあらゆる「壁」を無くそうではありませんか！世界を分断するさまざまな壁を！国境、民族、宗教、主義、主張、

私達を隔てるあらゆる壁を私達の祈りと印によって！私は、その実現の為の祈りと印の日々を送っています。

5. 大阪支部の村田訓代さん

私にとって平和は、まず自分の心から始まります。
怒りや悲しみを憎しみに変えないこと。
自分と違う考えを持つ人を、敵と決めつけないこと。
そして、世界で苦しんでいる人たちを思い、平和を祈ること。
世界を一度に変えることはできなくても、自分のいる場所に平和を一つ置くことはできます。
一人の心から生まれた平和が誰かに伝わり、その人からまた誰かへ伝わっていく。
そんな小さな波紋が、世界に広がりつつあること、世界が動き出したことを私は確かに実感しています。

6. 大阪支部の浅井恵子さん

私は家族という時に限りない平和を感じます。「動くピースポール」と言われる私たちは、動き続けることによって、縁ある土地、縁ある人、縁ある時に光を振り撒いています。それを、80歳を過ぎた今もコツコツ続けることを目指しています。

7. 大阪支部の宮本英典さん

私は、内在する自分と出会えてぴったりひとつになれた時に、平和を感じます。
そして、世界が寛容の風土に満たされることが私の夢です。
そういう世の中を目指す企業風土のある会社で、新しい職場を見つけています。

8. 大阪支部の小出良子さん

私が近年「神聖の輝き」を感じるのは、大自然ではなく、小さな自然です。道端の草、家々の生垣の花々や葉、日常生活で接するすべての植物が美しく輝いて見えるのです。すべての植物が、昔から知っている色とは異なって見えるのです。もちろん、葉の緑がピンクに見える、という訳ではなく、質感が違うというのか本当に輝いて見えるのです。次元が違うと言う事でしょうか？
彼らの声は聞こえては来ませんが、私からは「ありがとう」と声をかけさせて頂いています。
小さな声でね。

9. 大阪支部の山内江美さん

先日、シニアの方々によるピアノの発表会を見に行く機会がありました。大人になってから練習を始められた方ばかりなので、途中で手が止まってしまって、もう一度最初から弾き直さ

れたり、次の一音がなかなか出なかったりと…聴いている方も手に汗握って肩に力が入ってしまったんですが、どの演奏者の方も絶対諦めないで最後まで弾き続ける姿勢と真剣なまなざしに、その方の神聖が輝く瞬間に触れ、また、それまでのたゆみない練習の積み重ねが見えて、何度もこみ上げるものがありました。

これこそが五井先生のお言葉、「自己の信念の下に人事を尽くした時、運命は開かれる」だと思いました。

今の世界情勢も地球環境も想像を超えた状況を呈してはいますが、人類の神聖復活と地球の平和実現を信じて祈り、印を組み続けようと心を新たにしました。
本日はご参加ありがとうございました。